

「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」第5回意見交換会 《徳島県における電波の利活用事例の考察》

四国総合通信局(局長:川村 一郎)は、令和元年12月3日(火)、徳島市のあわぎんホールで「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」の第5回目の意見交換会を開催しました。同ネットワークは、四国管内で電波分野の研究に取り組む研究者の交流及び意見交換の場を設けるとともに、電波に関する技術情報や利活用・実証実験の事例も共有することにより、研究者をサポートすることを目的に立ち上げたもので、管内の4大学、5高等専門学校と管外の1大学から17名の研究者が参加しています。

第5回目の意見交換のテーマは、「徳島県における電波の利活用 ～とくしまIoT等推進ネットワークでの事例考察～」とし、合計31名(うち本ネットワーク参加研究者8名、ほか発表者5名)が出席して、活発な意見交換と情報共有が行われました。会議の概要は次のとおりです。

【ネットワーク参加研究者による最新研究開発の紹介1】

平成29年度から2年間、総務省の戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE(※))電波有効利用促進型プログラムにおいて研究された「Wi-Fiを用いたLDMエッジサーバの災害時利用に関する実証的研究」について、研究代表者である徳島大学大学院社会産業理工学研究部知能情報系の木下教授が、本採択課題の研究開発成果を紹介しました。

【ネットワーク参加研究者による最新研究開発の紹介2】

今年度、国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)の「データ連携・利活用による地域課題解決のための実証型研究開発」公募において、四国管内で唯一採択された研究課題「重症心身障害児の微細な反応を検知し、解析結果をお知らせするシステムの研究開発」について、研究代表者である四国大学看護学部看護学科の横関助教が、本採択課題の研究開発概要を紹介しました。

【徳島県における電波の利活用事例の紹介1】

徳島県政策創造部地方創生局地域振興課の森課長補佐が、とくしまIoT等推進ネットワーク等の「とくしまインダストリー4.0の推進」の取組について紹介しました。

【徳島県における電波の利活用事例の紹介2】

とくしまIoT等推進ネットワークからの推薦会員の取組事例として、株式会社Skeedの柴田部長が、徳島県美波町における「止まらない通信網」を活用した命をつなぐ減災推進事業」の取組について、防災と健康づくりの実証実験等を紹介しました。

【ローカル5Gに関する意見交換】

地域課題を解決するツールとして期待されているローカル5Gの利活用についての意見交換を実施しました。

四国総合通信局では、引き続き、産学官の共同研究や社会実装を見据え、民間企業を含めた、地域課題解決に資する研究開発についての意見交換会を開催してまいります。



意見交換会の様子



研究開発の紹介の様子

【お問い合わせ先】

無線通信部 電波利用企画課
電話 089-936-5071

※ 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE: Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme) は、情報通信技術 (ICT) 分野において新規性に富む研究開発課題を大学・独立行政法人・企業・地方公共団体の研究機関などから広く公募し、選考評価の上、研究を委託する総務省の研究開発資金です。電波有効利用促進型研究開発は、電波の有効利用をいっそう促進するため、新たなニーズに対応した無線技術に関する先進的かつ独創的な研究開発を推進するプログラムです。